

# 令和3年度 併設型小中一貫校 豊平学園北広島町立豊平小学校 学校評価自己評価表

## 1 経営目標・教育目標・経営方針等

<<校訓>> 「継続は力なり」(Practice makes perfect.)

**【豊平学園教育目標】** 志高く 未来を拓く 児童生徒の育成

**【小学校学校教育目標】** ふるさとに学び、ともに学び続ける  
たくましい児童の育成

<<めざす子ども像>>

- ◆ **と**ことんやる子 (基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な子)
- ◆ **よ**りよく学び続ける子 (学ぶ楽しさを味わい、確かな学力を身につけた子)
- ◆ **ひ**との気持ちを考え行動する子 (思いやりや社会性など豊かな心を持った子)
- ◆ **ら**ぶ(love)ある子 (郷土に誇りと愛着を持った子)

**【経営方針】**  
併設型小中一貫校・学校運営協議会設置校(コミュニティ・スクール)としての特性を生かし、「地域の教育力を生かした児童生徒の力を最大限に伸ばす学校」をめざす。

- 小中一貫教育の推進
- 保護者・地域と共に創る「ふるさと学習」の充実
- 地域へ貢献する学校づくり

協働

## 2 中期・短期目標、評価計画、評価・達成状況 《年間を通して計画的に評価し改善を図っていく》

項目	評価計画				自己評価					学校運営協議会評価		改善方策	
	中期経営目標 (小中一貫)	短期経営目標 重点	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標 [年間]	最終 (目標)	最終 (達成)	達成度	評価	結果と課題の分析	評価		コメント
信頼される学校	コミュニティ・スクールを生かし、地域の願いを大切に信頼される学校・地域に貢献する学校づくりを推進する。	ふるさと学習・地域交流の推進 情報発信・学校公開の充実	○年間計画に基づき、地域の教育力を活用した「ふるさと学習」を実施する。 ○学校運営協議会を活性化する。 ○学校の取組、教育実践をHP、学校便り、きたひろネット等で、情報発信する。	・児童アンケートの肯定的評価の割合  ・地域・保護者アンケートの肯定的評価の割合	90%  90%	90  90	85  85.9	94  95	B  B	○コロナ禍により外部講師の招聘が難しい時期があったが可能な範囲で実施した。慌ただしかったためか、児童アンケートで中間評価から約6ポイント減少した。 ○学校運営協議会ではコミュニティスクール・マイスターを招き、活性化に向けて熟議を行った。熟議の結果を次年度の学園構想に結び付ける。 ○保護者アンケートの肯定的割合は、中間評価から微増。地域の方を招いての行事が開催できず、学校の様子に分りにくいことも一因と考える。コロナ禍において学校の取組を効果的に発信する方策が必要である。	A	適正である。 ・招聘した地域の外部講師について概要を知りたい。	○引き続き「ふるさと学習」の充実に向け、積極的に地域人材活用、効果的な発信活動、児童の学びの自覚化など重視していきたい。 ○学校訪問の機会を確保し、児童の様子を公開していく。
たくましく健やかな体	生活の基盤となる健康な体、気力・耐力の育成を図るとともに、基本的な生活習慣の定着を図る。	基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な児童の育成  生活リズム  走力	○保護者と協働する。 ○生活リズムを整えるための取組を年3回実施し、児童自ら取り組ませる。  ○体力づくり(走ること)の目標を設定させ、体育・業間体育等で取り組ませる。	・実態調査による目標達成の割合  ・新体力テストにおける50m走、シャトルランの記録が県平均を上回った児童の割合	85%  50m走 60% シャトルラン 60%	85  60 60	88  67 100	103  111 100	A  A	○起きる時刻95%、寝る時刻73%、朝ごはん96%。寝る時刻が中間報告より9%増加した。健康朝会での啓発や、年3回の定期的な取組により、児童や保護者の意識が定着したと考えられる。 ○体育祭で走る競技が多かったことも50m走の目標達成につながったと考えられる。校内マラソン大会の実施に向けて練習を重ねたが、シャトルランには課題が残る。遊びや運動機会が減少し、また、運動量確保の取組が計画通りに実施できず、運動量そのものが低下したことが大きな要因と考えられる。	A	適正である。	○感染状況を注視しながら、体育や業間運動を充実させることと合わせ、晴れている日は外遊びを奨励するなど、日々できることを大切にしていく。
豊かな心	社会人として必要な資質や能力の基礎を築き、たくましく生きる力を育成する。	思いやりや社会性など、豊かな心を持った児童の育成  3つの約束  自主的活動	○計画的に重点週間を設け、目標をもって取り組ませる。 ○相手意識のある挨拶を定着させるよう、評価活動を行う。  ○北風と太陽作戦(みんなのために活動していることや思いやりの心を見取る期間)の回数を学期に一回設ける。	・3つの約束「挨拶・掃除・時間」で1つでも表彰された児童の割合  ・アンケートで、「相手の気持ちを考えて発言している」「みんなのために活動をしている」と答えた児童の割合	95%  85%	95  85	95.8  発言 94.5 行動 92.3	100  発言 111 行動 108	A  A	○全校児童119名中115名が3つの約束のいずれかの表彰を受けている。表彰に至らなかった児童に対して、個別に目標を設定している。来客に対して挨拶する児童が増えるなどの成果もある。 ○「北風と太陽作戦」をはじめとした積極的な評価活動により、言葉づかいや行動が改善されてきた。「みんなのために行動」の定義が児童ごとに異なっていることがあるため、質の向上が求められる部分もある。	A	適正である。	○「みんなのためになる行動」について職員全体が具体的な姿について意識統一し、それを児童と共有できるようにしていく。
確かな学力	学ぶ楽しさを味わわせ、基礎・基本の確かな学力の定着を図る。	学ぶ楽しさを味わい、確かな学力を身につけた児童の育成  子供が話す  研究主題	○子供が話す授業づくりをめざして、児童に「対話スキル」を身につけさせる系統的な取組を行う。  ○研究主題「主体的・対話的で深い学びによる思考力・表現力の育成～導入の工夫・学び合い・振り返りの充実を通して～」の実現に向けた、授業改善に組織的に取り組む。	・学習アンケートの話す項目において、学年に応じた対話スキルが身につけていると答えた児童の割合  ・単元末テストの正答率(国・算) ・CRTテストで全国比105を超える通常学級の割合	80%  85%  100%	80  85  100	73.9  国 85.5 算 86.0  CRT 17	92  100  100  17	B  C	○「自分の考えを友達に分かりやすく伝えている」「友達の考えを聞いて自分の考えを深めている」の問いに児童は肯定的に回答しているが、目標値に達しなかった。自分たちが「対話スキル」を活用していることを意識付けすることが十分でなかった点がある。発達段階に応じて、活用できるよう手立てを講じる。 ○単元末テストは目標を達成している。しかし、両教科とも目標を下回った学年が2つずつある。CRTの目標を達成した学年は1つしかなかった。児童1人1台端末を効果的に活用したが、反面、読書量が減ったり書く活動時間が十分にとれなかったり等の課題が生じてきている。	B	ほぼ適正である。 ・単元末テストは達成しているためB評価とする。 ・「最終達成値CRT17」の捉えが難しい。学年数を分母とした分数で達成度を表す、または全国比105を超えた個の人数を評価する方法もあるのではないかと。 ・タブレット活用技能の向上の反面、書く・読む活動はタブレット導入前に比べて減っているということなので、バランスよく取り入れてほしい。	○評価項目や指標、達成数値等について、評価の視点が明確であるように、また経営目標の達成に向けた取組として妥当性があるよう設定していく。 ○タブレットの活用方法について研修を深める。

評価基準 【自己評価】 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60  
 【学校運営協議会評価】 A: 自己評価は適正である B: 自己評価はほぼ適正である C: 自己評価はあまり適正でない D: 自己評価は適正でない E: 分からない